



新緑の明るい日差しの中で大きく深く呼吸。こんな幸せを感じる5月は一年で一番好きな月です。今年のシャクナゲは花芽を沢山付けてどの樹も精一杯花を咲かせてくれました。皆様には如何お過ごしでしょうか。

「銀(しろがね)も金(くがね)も玉も
何せむに まされる宝
子に如(し)かめやも」

こんな短歌を思い出しました。これは長男が生まれました産院の待合室に飾ってありました。この短歌は山上憶良が詠んだ歌で、憶良はこの成相寺が文武天皇の勅命により開創された頃に

子にしかめやも

第14号

発行
成相山成相寺

京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.nariaiji.jp/>

遣唐使として唐の国に渡った方です。仏教の思想を唐の国で学び、弱い立場では人間性にあふれた多くの歌を詠んでいます。

家内が長男を身ごもったとき、つわりが酷くその産院の先生に「しんどいです」と言ったのですが、先生は慰めるどころか家内をきつくしかって、「当たり前だ。子供がお腹の中に居るのだから。どんな巡り合わせか判らないくらいのお腹の中で、一つの命があなたのお腹の中で生まれてこようと、生きようとしているのだから。あなたは母親になるのですよ、これから子供を守り育て世に送り出すのですよ。その事を考えると今が一番大事な時。葉なんか飲んで子供に影響が出たらどうするんですか。負けてどうするんですか」と。横で聞いている私も泣きそうな位に、その先生はたいそうきつくしかり目を覚まして下さいました。今の時代では受ける立場の人によってはちょっと問題が起きそうな怒り方のような気もしますが、その先生が一番大事にしておられたのが先の「まされる宝子にしかめやも」の歌でした。これでもか、位にしっかり飛ばした後でその先生はこの歌をそらんじて、にっこりと笑われたのです。それから家内のつわりは酷いままでしたが、どこか覚

悟をしたように思えました。

「輪廻転生」という言葉。一度はお聞きになられた方が多いと思います。この世の中には動物や植物と数限りない命が存在し何度も死にそして何度か生まれ変わる転生を繰り返して、そしてある時、人間に生まれてくる。果てしない輪廻を抜け出て私達が人間として生まれてくると言うことは奇跡に近いこと。と、仏教の教えの中にあります。生物学的に解釈すると先祖代々の遺伝子を受け継いだ受精卵が生育してという事になるのでしようが、それも大変なことです。何にせよ、この世に生まれてくると言うことは、大いなる奇跡によるものなのでしょう。

いつの時代も子供はまさに宝物。しかしこんな平和で豊かな時代でも、大事な命として大切にされない子供の話も後を絶ちません。

数年前に次男が児童養護施設で研修を受けていたので、施設に迎えに行った時の事です。私が車から降りると一人の小さな男の子が凄く勢いで走ってきて「おとうちゃん。迎えに来てくれたん。お父ちゃん」と私の足によじ登ってきました。驚いて抱き上げると眼に一杯涙を浮かべた男の子が嬉しそうに笑いました。私は胸が締め付けられました。この子は車から降りる男の子は全部自分を迎えに来てくれたお父ち

やんに思えて走ってくるそうなんです。が、まだ本当のお父ちゃんを迎えに来てくれないそうです。帰りの車で次男から研修の様子を聞いて、大人の事情に弄ばれても、けなげに生きている子供達の姿を目の当たりにして、自分の世界が狭かったというかまだまだ知らないことが多いと思ひ知らされました。過ぎるくらい大切に育てられている子供達も、迎えを待って一日過ごす子供達もみんな等しく大人になります。みんな宝物です。

不遇を託った子供達が大人になった時に、この国を誇りに思い社会の一員として立派に生きていくてくれることを願って止みません。未だ仏様の慈悲を観音様の慈悲を知らないで育っている多くの子供達。それぞれ幸せであろうし、そうでないかもしれない。私はこれからその子供達に、仏様を知って貰える様に何から始めようかと考えさせられました。信心は義務教育の中では教えてくれない、教えられない今の世ですが、正しいものを信じ帰依する喜びや得られる安心は、なにもにも代え難いです。救われるのです。

子供達のために、仏教を先祖を解りやすく教え共に学んでいく。仏教系の私立の学校では行われていますが、殆どが未経験の子供達でしょう。何が出来るか。何からやれるか。

私が悩んでいる様子をご覧になって、観音様はお手伝い下さるでしょうか。お手並み拝見とお思ひになられるのでしょうか。これからの私の頑張りがどうか。

南無観世音菩薩
合掌
山主 弘眞